

第1学年東組 生活科学習指導案

「見て！聞いて！ぼく、わたしの成長！ ～もうすぐ2年生～」

学習指導者 増田 洸一 支援員 玉井 亮輔

1 学級（35名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔学びを正確に捉える力〕

質問紙調査では、新しく分かったことやできるようになったことが何かを確かめている子供が24名、できた（できなかった）理由を考えている子供は19名と少ない。授業の振り返りの場面においても、学んだことを自分の言葉で表現することが難しい様子の子供が多く、理由まで考えられていない。

（2）教科に関する学級の実態

生活科では、お手伝いや動植物のお世話などに意欲的に取り組み、できるようになったことが増えてきている。できるようになったことや成長したことを問うと、友達のつぶやきなど想起するためのヒントがあれば、字の丁寧さや計算など具体的に思い出せる子供が多い。

本単元で習得させたい「学びを正確に捉える方法」

できるようになったこととその理由を振り返る

2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元では、入学してから今までの生活を振り返り、できるようになったことを自分なりに表現する活動を通して、自分の成長や変容に気付き、2年生に向けて意欲を高めていくことを目指す。単元の初めに、日々の活動の様子や行事の写真を基に1年間の出来事を振り返り、クラスの成長ツリーにできるようになったことをまとめた子供たちは、「自分の成長ツリーも作りたい」という思いを高め、「1年間の自分自身の成長を見付けて、自分の成長ツリーを完成させよう」という活動のゴールを設定する。ワークシートや作品など、複数の学習の履歴を見返して、過去と現在の自分とを比較した子供たちは、花の付箋に自分自身の成長を書いたり、葉っぱの付箋に成長できた理由を書いたりして、ツリーに整理して見返してみることで、内面的な成長や成長を支えてくれた様々な人の存在に気付いていく。支えてくれた人たちに感謝の気持ちが芽生えた子供たちは、「支えてくれた人に感謝を伝えて、さらに自分の成長したところを見せよう」という単元のゴールを設定する。そして、特に家族や6年生にお世話になっていることに気付いた子供たちは、感謝や成長を伝える表現方法や内容などに問題を見だし、計画を立てる。感謝の気持ちを手紙で伝えることを決めた後、「家族には、まだ見せたことがない歌の成長を見せて、6年生には教えてくれて成長したことが伝わるように、縄跳びを見せたいな」など相手意識や目的意識をもって、見せたい成長について内容を一つ選び、4～6名の班を作り、班ごとに発表を工夫していく。例えば、6年生へ縄跳びを発表する班では、「ぼくはみんなが得意な前跳びとかけ足跳びを見せたらいいと思うよ」「みんなが自信をもって跳べる技はいいね。発表のコツにもある動きのコツがクリアできそうだね。他にも、6年生に教えてもらったあや跳びも見せたらどう」「なるほど。苦手だったあや跳びを見せると成長が伝わりそうだ。跳ぶ技の順番は、簡単な技から難しい技にしたらどう」「確かに、家族に歌を歌った時も簡単な曲から難しい曲の順番で歌うと驚いてくれたね」などと、友達とよさや改善点を伝え合い、練習を重ねて工夫していく。振り返り場面では、その時間に自分ができるようになったこととその理由の観点で振り返り、友達となぜその振り返りになったのかを伝え合いながら、前よりも相手に成長が伝わる発表になったことを捉えたり、次したいことを見付けていく。このような学習を通して、自分の成長を多面的に振り返り、具体的に実感できた子供たちは、2年生への生活に向けて、より一層自信をつけ、進級する意欲を高めたり、さらに多くの人と進んで関わっていこうとしたりするなど、生活を豊かにしていくだろう。

3 単元計画と単元構成の工夫 (本時 7/14)

次	学習の流れ	単元構成の工夫
	<p>① 1年間を振り返ろう 写真を基に、1年間の出来事を振り返り、自分の成長を見付けたい思いを高め、活動のゴールを設定する。</p> <p>②③ 自分の成長を集めて、成長ツリーを完成させよう 複数の学習の履歴を基に見付けた成長や成長できた理由を付箋に書き、学校のこと、家のことという項目ごとの枝に分かれた成長ツリーに整理してまとめる。</p> <p>④ 完成した成長ツリーを伝え合おう 成長や成長できた理由を友達と伝え合い、自分の成長を見つめ直すことを通して、支えてくれた人の存在に気づき、感謝の気持ちをもつことで、単元のゴールを設定する。</p>	<p>【魅力的な目標を子供と共有する場】 ①④ ①時間目に、連絡帳に蓄積してきた写真を基に1年間の行事や活動を振り返り、今までの経験を想起させる。「どんなことができるようになったかな」と問うたり、クラスの成長ツリーを作ったりすることで、自分自身の成長についても見付けて、自分のツリーを作りたい思いを高め、「1年間の自分自身の成長を見付けて、自分の成長ツリーを完成させよう」という活動のゴールを設定する。</p>
	<p>⑤ ゴールに向けて計画を立てよう 特にお世話になっている家族と6年生に対して、感謝の手紙を国語の授業で書くなどの計画を立てる。家族に伝えたい自分の成長について、成長ツリーや子供の成長について尋ねた保護者アンケートを基に発表内容を決め、班に分かれる。</p> <p>⑥～⑧ 成長が家族にもっと伝わる発表にしよう 家族に向けて、決めた内容をどのように発表するかを、今まで学んだことのある表現方法を想起し、相手と目的を意識しながら表現方法を選び練習していく。</p> <p>⑨ 家族に向けて発表会をしよう 授業参観の時間を使って発表会を行い、感想をもらう。</p>	<p></p> <p>【成長ツリーの一部】 ④時間目には、葉っぱの付箋に成長できた理由を書き、見直すことで、内面的成長や成長を支えてくれた様々な人の存在に気付く。支えてくれている存在に改めて知ってどう思うかを問うことで、感謝の気持ちを伝えたり、成長した姿を見せたいという思いを表出させ、単元のゴールを設定する。</p>
二	<p>⑩ 発表会を振り返り、次の発表会に向けて計画を立てよう できたことやできた理由を振り返る。6年生に成長を伝える内容決めや班分けを行い、表現方法を決める。</p> <p>⑪⑫ 成長が6年生にもっと伝わる発表にしよう 前回の経験を生かし、⑥～⑧と同様に発表練習をする。</p> <p>⑬ 6年生に向けて発表会をしよう 6年生を招待して発表会を行い、感想をもらう。</p> <p>⑭ 自分の成長や発表会を振り返ろう 感想を読み、自分のことが相手に伝わる楽しさを捉える。進級して頑張りたいことを考え、今後の生活の意欲を高める。</p>	<p>【子供が自ら選択して、学びを進める時間】 ⑪⑫ 家族への発表経験を生かし、6年生に合った発表内容や表現方法を選択できるようにするために、自ら練習を工夫する場を設定する。その際、全体で考えた発表のコツを、班でどのコツから解決していくか選択できるようにする。</p>

4 方法の習得の段階に合わせた手立て 【チェックタイム】 ⑥～⑧、⑪⑫

認知⑥～⑧	想起⑪⑫
<p>振り返り場面で、「今日の学びを振り返るためには、この時間できるようになったこととその理由『友達と協力できたか』『相手のことを考えてできたか』を確かめたらよい」ことを教示する。⑦⑧の見通し場面で、教師が撮影した写真等を使って、自分たちの姿とチェックシートの観点の具体を結び付け、理由の観点について取り組むことで課題解決につながるよさを伝える。</p>	<p>振り返り場面で、「今日の学びを振り返るためには、どうすればよかったかな」と問い、学びを正確に捉える方法やそのよさを想起させる。</p>
実感	
<p>課題解決できた理由を四段階で評価する際、その根拠を友達と伝え合う場を設けることで、学びを正確に捉えやすくする。できたこととその理由を振り返ることで、この時間の成長や次の課題に気付けたことを称賛する。</p>	

5 本時の学習

目 標	単元のゴールに向けて、レベルアップボードや前時の振り返りを基に班で本時解決したいコツを決め、友達と発表練習する活動を通して、より家族に成長が伝わりやすい発表に工夫できる。
--------	---

学習活動と手立て	主な子供の意識				
見 通 し	1 本時の課題を確認し、見直しをもつ。	前は、家族に何を発表するか決めて、班に分かれて練習したよ。			
		「友達と協力」と「家族に伝える」を意識して、練習するといいたね。			
行 動	2 発表のコツを友達と話し合いながら、練習する。 ・自分の班で ・他の班と	支えてくれた家族に成長を伝えるために、コツをクリアしていこう。			
		成長が家族にもっと伝わる発表にしよう			
		まだ達成していないコツから今日のめあてを選んで練習を工夫しよう。			
		縄跳び班	技の順番は決	音読班	動画を見ると早口
		また練習	まったから、今日は説	で動きが小さいな。まず、	していない曲で、動き
		明を考えよう。	声や音を練習しよう。	を確かめよう。	
		今日決めたコツをクリアするとまたゴールに近づくぞ。			
		説明が同じ人だとその	動きを付けずに、まず声	まずは三人ずつで別れ	
		人は跳べないから、説	だけで読もう。みんなで	てしよう。家族がいる	
		明の人は交代でしょう。	リズムをそろえよう。	と思って堂々と歌おう。	
難しいポイントも伝え	よくなったよ。聞き取り	家族のアンケートにも、			
たら成長がもっと伝わ	やすいかは、他の班に確	堂々と発表する姿、笑			
るね。家族にもこの内	かめてもらおう。次は動	顔で発表する姿が見た			
容で伝わるかな。	きをもっと大きくしよう。	いって書いているよ。			
発表を他の班に見てもら	って、よきやアドバイ	六人で合わせてないか			
を聞きたいな。もっと	発表をレベルアップし	ら班の練習を続けよう。			
たい。					
前より言葉が分かりや	説明がはきはきと分か	動画で撮ると、六人と			
すいけど、動きが小さ	やくていいね。最近練	も大きな動きで歌えた			
いよ。役になりきって	習しているあや跳びも	ね。でも、目線がバラ			
楽しく動くといいよ。	入れたらどうかな。	バラだな。			
教えてもらったことを	生かして、また練習し	よう。			
何回もすると動きに	自信がついてきたね。今	回は他の班には見ても			
今の技だけじゃなくて、	動きがまだ小さいかな。	らえなかったな。			
難しい技も一つ入れる	恥ずかしながら、役に				
と成長がよく伝わるね。	なり切ろう。				
今日の練習の成果を動画に撮ろう。					
振 り 返 り	3 本時の学習を振り返り、次時したいことを見付ける。 【チェックタイム】	この時間できるようになったことや理由を振り返ろう。			
		前よりよい発表になっ	他の班に見てもらった	家族が見たい発表を考	
		たよ。○班と交流して	けど、動きがまだ小さ	えたから、よりよい発	
新しい工夫を見つけら	成長が伝わりにくいよ。	表になったよ。次は姿			
れたからだよ。	次も動きを練習したい。	勢と目線をよくしよう。			

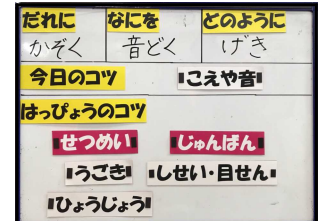
評 価	単元のゴールに向けて解決したいコツを設定し、相手意識をもちながら友達と発表練習することを通して、家族に成長が伝わる発表になるように工夫している。前よりもよい発表にすることができたかやその理由を振り返り、次にしたいことを見付けている。【方法：発言、様相、記述】
--------	---

～見通し～ **学習活動1**

本時までには子供たちは、家族に感謝を伝えるだけでなく成長を見せるために、成長ツリーの中から伝えたい自分の成長を決め、同じ内容の友達と4～6人のグループを作っている。また、成長が相手に伝わりやすい発表にするための全員共通のコツを全体で話し合い、そのコツを達成しようと練習し、前時達成できたコツは色を変えてレベルアップボードに位置付けている。これは、達成するコツが増えるとゴールに近づくことを視覚的に捉えられるようにしている。本時はまず、単元計画表やレベルアップボードを基に前時の学習を振り返る。その際、前時の子供の姿を提示し、「○さんは縄跳びの技の順番を友達と相談してよりよい順番を見付けられていたね。これは友達と協力できている姿だね」などと友達と交流して工夫を見付けたり、家族のアンケートを見返して工夫している姿を価値付けることで、チェックシートにある課題解決できた理由の観点で達成している具体的な姿を意識して、子供たちが活動に取り組めるようにする。その後、「もう発表は完璧かな」と問うことで、発表をもっとよくしたいという思いを高め、ゴールに向けて本時も発表のコツを解決していくことを確認する。そして、なぜ家族に成長を伝えたいと思ったのかや、よりよい発表とはどんなものなのか全体で共有することで課題解決の有用性を感じられるようにする。さらに、今日解決していくコツは決まっているかを班で確認し、活動の見通しをもたせる。支今日解決したいコツに迷っている班には、前回の動画を見返すように伝え、今の自分たちに合うコツを設定できるようにする。



【単元計画表】



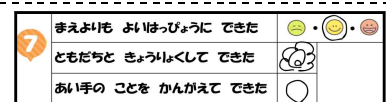
【レベルアップボード】

～行 動～ **学習活動2**

行動場面では、まず、どの活動にどれくらい時間をかけるかを子供達と共有した後、各班練習場所に移動し、課題解決していく。その際、レベルアップボードのコツを確認して練習する中で、達成できたと思えるコツは裏返して、色を変えていく。最初のコツを達成できれば、また次のコツを班で相談し決める。また、「どんな成長した姿が見たいですか」などの質問項目があるアンケートを保護者に答えてもらい、その結果をいつでも見返せるようにしたり、机間指導の際に「家族が見たい発表になっていますか」などと問うたりして、家族という相手意識をもちやすくする。友達と協力したり、相手意識を大切にしたりできている子供の姿が見られた際には、適宜その姿を称賛する。中盤では、他の班と発表を交流したいか、班での練習時間を続けるか子供達が選択し、交流が必要な班は、必要な班同士で教師がペア班を作って発表を見せ合えるようにする。見る側は家族役となり、課題を達成できているかどうかや、発表の改善点を伝える。交流後は伝え合ったことを基に再度練習に取り組む。終盤では、本時の練習の成果を動画で撮影し、見返せるようにすることで、変容を捉えやすくする。支発表が苦手な児童がいる班には、発声以外でも活躍できる場を作れるように助言する。子供が素早く交流できるように、どの班とペア班を作るか、どの場所で見せ合うかなど助言する。

～振り返り～ **学習活動3** 【チェックタイム】

振り返り場面では、「今日の学びを振り返るためには、この時間できるようになったこととその理由『友達と協力できたか』『相手のことを考えてできたか』を確かめたらよい」ことを教示する。解決できたコツの数を基にしなから、チェックシートに課題解決できたかどうかを三段階で評価し、その理由を花丸○△×の四段階でマークを付ける。マークを付けたら友達となぜそのマークにしたのか伝え合う場を設定することで、本時の活動場面を想起して自分の姿を正確に振り返りやすくする。できなかつたと感じている子供には、次にどうしたいと考えているのか問いかけ、次にしたいことを表出させることで、次時の課題解決への意欲を高める。できたこととその理由を振り返ることで、この時間の成長や次の課題に気付けたことを称賛する。支場面を想起して伝えることが苦手な子供には、同じ班の友達に行動場面の様子を問うたり、ボードを一緒に見返したりして、理由を伝えられるように促す。



【チェックシートの一部】